

# 高松市自殺対策計画（案）についてのパブリックコメント実施結果

本市では、平成 30 年 12 月 27 日（木）から平成 31 年 1 月 28 日（月）までの期間、高松市自殺対策計画（案）についてのパブリックコメントを実施しました。

いただきました御意見の要旨及びそれに対する本市の考え方を、以下のとおりまとめましたので、公表いたします。

## 1 意見総数 12 件（10 名）

## 2 いただいた御意見（要旨）とそれに対する市の考え方

※提出いただいた御意見は、趣旨の変わらない範囲で、簡素化及び文言等の調整をさせていただいております。

| No. | 御意見（要旨）   | 市の考え方  |
|-----|---|--|
| 1   | 自殺の背景が様々なこともあり、相談窓口が非常に細分化されているようだが、相談機関同士の連絡体制はどうなっているのか。それぞれで専門的な対応をしていただけるということだとは思いますが、包括的な対応が必要なケースもあるのではないのか。 | 相談窓口は、相談者が利用しやすいよう、分野別に掲載しております。自殺に至る要因は様々で 1 つの相談窓口では解決できないこともあります。<br>このようなことから、高松市においては支援者同士のネットワーク会議やケース会議の開催を通じて、現状把握や役割分担をして、個々の事案について包括的に対応しております。<br>今後も連携体制の強化に努めていきたいと考えております。 |
| 2   | 自殺対策に携わる人材の確保や育成も大事なポイントのように感じる。担い手に対する不安はないのか。人口減少社会において、現状の機関・人を元に計画するのではなく、対応する側のマンパワー低下も視野に入れた計画が必要と思われる。       | 御意見のとおり、人材の確保や育成は重要であることから、ゲートキーパー養成講座などを開催し、自殺対策に係る人材の確保や養成を行っております。今後におきましても、自殺対策に携わる担い手づくりに努めていきたいと考えております。   |

| No. | 御意見（要旨）  | 市の考え方  |
|-----|--|--|
| 3   | <p>小中学生の「いじめ」問題が社会に影を落としてから、相当の期間が経っていますが、いまだに自殺者が後を絶ちません。高齢者の自殺の原因が多岐に渡るのに比べて、小中学生の自殺の原因は、ほとんどが「いじめ」であり、この対策は重要であると考えます。</p> <p>その対策として、担任教師に対する「いじめ」防止の教育・研修は、現行の研修だけでなく、更に徹底する必要があると感じます。特に、自分が教える生徒が亡くなった後の教師自身の「心の傷」も相当なものであり、そうした実例も踏まえて、あの時もっとこうしておけばよかった等、教師の反省も含めて研修を徹底すべきと考えます。</p> <p>生々しい実例から学ぶ研修内容であれば、受講される教師の皆さんも有益であると感じてくれると信じます。</p> | <p>「いじめ」については、主に教育現場での取り組みとなり、本市教育委員会では「児童生徒問題行動等対応マニュアル」を作成し、事例別対応マニュアルとして、「いじめ」「自殺のほのめかし」等を取りあげ研修資料として活用しておりますが、ご意見にありますメンタルサポートを含め、児童生徒及び教員への自殺対策の取組の充実に努めたいと考えております。</p>   |
| 4   | <p>発達障害についての認識を広げることと、早期に適切な支援が得られるようにすることも必要だと思っております。</p> <p>加えて、自殺未遂や自傷行為を繰り返している人は居場所がなく、孤立している状況にあると思うので、困り感や生きづらさを話せる人や場所が必要だと思っております。</p>   | <p>「発達障害」は近年、学校でも職場でもクローズアップされることが多くなっております。保健センターで実施しております「こころの健康セミナー」で、広く市民に正しい知識を広めるとともに、支援体制についても専門機関と連携を深めていきたいと考えております。</p> <p>また、困り感や生きづらさを話せる場所の1つとして、保健センターの「こころの健康相談」専用電話を更に周知啓発することで、対応してまいりたいと考えております。</p> |

| No. | 御意見（要旨）  | 市の考え方  |
|-----|--|--|
| 5   | <p>「自殺」という、暗く、重くなりがちなテーマを扱う計画だからこそ、重点施策のページなどに、高松市の素敵な風景の写真が掲載されていることは素晴らしいと感じた。</p> <p>これからも、このような高松らしい計画が策定されることを望む。</p> | <p>お褒めの言葉をありがとうございます。</p> <p>「自殺」のイメージは人それぞれかもしれませんが、より「わが事」として考えてもらえるよう、郷土愛を彷彿させる高松の風景を取り入れました。</p> <p>策定後も、高松市民の現状に合ったものになるよう、取組を評価し、改善していきたいと考えております。</p>                                       |
| 6   | <p>計画を策定するだけでなく、実効性のある取組を実施することが重要と考える。</p> <p>「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現に向けて、自殺者が減少するよう、高松市として着実に取組を進めていただくことを希望する。</p>      | <p>計画の20ページにあります「支援イメージ図」のように、本人を取り巻く人々がゲートキーパーとなり、その方々を市役所や関係団体、民間団体が様々な取組によって支えることで、「誰も自殺に追い込まれることのない社会」を実現したいと考えております。</p>  |
| 7   | <p>計画の進捗状況や目標の達成状況等について、何らかの形で市民に公表されるのか。</p>  | <p>計画策定後は、毎年、高松市自殺対策推進会議を開催し、計画の進捗管理及び点検・評価を行います。会議記録はホームページ上で公表されます。</p>  |
| 8   | <p>計画書中の取組内容に、ひきこもり対策の推進が掲げられているが、ゲーム依存によるものも含めた、ひきこもり対策に尽力していただきたい。</p>   | <p>ひきこもり対策については、ひきこもりサポーター派遣事業の実施やひきこもり相談窓口の開設などを行っておりますが、今回意見のありました「ゲーム依存」については、今年度「こころの健康セミナー」の中で「依存症」をテーマに実施したところです。</p> <p>今後におきましても「ゲーム依存」によるものも含めたひきこもりについて、これらの事業を通じて対応してまいりたいと考えております。</p> |

| No. | 御意見（要旨）   | 市の考え方   |
|-----|---|---|
| 9   | <p>高松市の重点パッケージは「高齢者」「生活困窮者」「勤務・経営」となっている。中でも高齢者の自殺の割合は高いことから、高齢者への対策が重要であると思う。</p> <p>そのためには、高齢者の方々への相談窓口の周知は必要であるが、なかなか相談につながらない人も多いと予想されるので、高齢者の方の地域での孤立を防ぐことや地域のつながりを強化するような対策をより一層進めてもらいたい。</p> | <p>高齢者への自殺対策は重要で、保健センターだけでなく高齢者部門の課との連携をより強化する必要があると考えております。</p> <p>相談窓口を周知するとともに、孤立予防や地域でのつながりを強化する取組をしている課との連携を深め、自殺対策の拡充を図りたいと考えております。</p>   |
| 10  | <p>若年層の自殺対策として、教育現場での自殺予防の働きかけがより重要だと思う。命の大切さを教えることや気軽に相談できる環境づくりが大切だと思うが、相談にはハードルが高いところもあると思うので、メールや SNS などを使って相談できるようにしてもらいたい。</p>  | <p>この計画の第5章にあります相談窓口一覧の中で、厚生労働省の SNS 相談の紹介をしております。時代に合った相談体制の整備は必要と考えておりまして、御意見の内容につきましては、国や県、自殺対策推進会議でも意見を聞きながら、若者層も相談しやすい体制づくりを検討してまいります。</p>   |
| 11  | <p>企業では、働き方改革を進める半面、業務改善が各個人の能力に委ねられ、短時間で効率的に生産性が上げられない個人は排除されかねない、新たな課題に直面している。うつ的な状況に追い込むことがないよう、また、うつになっても排除することのない職場環境にするため、専門的な機関の働きかけが必要と思われる。</p> <p>企業への情報発信をお願いしたい。</p>                    | <p>職場環境の整備につきましては、本市の自殺対策を推進する「高松市自殺対策推進会議」のメンバーである高松労働基準監督署にも今回の意見を伝えていきたいと考えております。</p> <p>また、うつ病について正しい知識を持つことも必要だと思いますので、広く市民に啓発していくことや企業に対しては、市産業振興課発行のたかまつ労政だより等を通じて、機会を捉えて発信していきたいと考えております。</p> |

| No. | 御意見（要旨）  | 市の考え方  |
|-----|--|--|
| 12  | <p>道徳の教科化が始まる中で、自殺も含めた命の教育に今後も取り組まないといけない。その中で、児童への啓発活動の一つとして、命や自殺に関する出前事業等を企画して、子どもたちの教育活動の中に取り込むことができればよいと感じる。</p> | <p>自殺対策大綱においても、子どもの心の教育、「SOS の出し方に関する教育の推進」が基本施策に位置づけられています。</p> <p>御意見のありました児童への啓発活動については、現状を把握しながら今後どのように展開できるかを、教育の関係課とともに検討していきたいと考えております。</p> |